

# 中国地区信金、「現場対応力」を向上 ロープレ大会に900人来場

2026.03.09 10:39 無料公開

人材育成

フォローする

保存済み



優勝した広島信金の廣中さん（左、3月7日、JMSアステールプラザ）

中国地区の信用金庫が「現場対応力」の向上に努めている。中小企業経営者から悩みを引き出し、適切な解決策を提案する力だ。資材価格や人件費の高騰など中小企業を取り巻く経営環境が一段と厳しくなるなか、「表面的な取引にとどまらず、真に寄り添う姿勢が求められている」（信金トップ）。足元では預金獲得など目的に、取引先数の増強が喫緊の課題で、各金庫は営業現場のスキルアップを急ぐ。

3月7日、広島市内の大型ホールに中国地区の信金職員約900人が集まった。目的は、各金庫のエース級職員が出場したロールプレイング大会だ。

今大会のテーマは「新規事業先開拓」。設定は学習塾経営者に対し、経営課題を聞き出したうえで、次の面談機会につなげる——というもの。競技時間は15分。出場した7人の職員は、経営者役から生徒の募集方法や講師の確保など悩みを引き出し、自金庫サービスや公的支援策を紹介した。

優勝は広島信用金庫の廣中泰祐さん（31）。受賞理由は「経営者役の難しい質問に対し、切り返しが的確。話しやすい雰囲気をつくる手腕も見事」（事務局）。廣中さんは「情報が限られるなかで、複数の仮説を立てて臨んだ。自らの仕事の仕方を振り返る機会にもなった」と感想を話した。

こうしたやりとりを職員のスキルアップに生かそうしている。島根中央信用金庫は例年、全職員の半数近くとなる約100人を会場に送る。「月刊金融ジャーナル」の調査によれば、同信金の渉外人員比率（2025年3月）は34.9%で全国1位。全国平均を12.3ポイント上回る。福岡均理事長は「（ロープレ大会観戦は）重要な研修だ。他金庫の営業現場から学ぶ点は多く、職員は自らを高めるきっかけにしてほしい」と期待する。

ある信金の部長は「経営者に取引のメリットをいかに感じてもらうか。提案するためにも、悩みを引き出す力が欠かせない」とし、現場対応力を高める考えを示した。



## おすすめ

総務省、公金収納手数料適正化の実態調査へ 交付税見直しも視野

伊予銀と愛媛銀、脱炭素経営支える 「今治モデル」を横展開

佐賀共栄銀、新頭取に納富常務が昇格 二宮氏は代表権ある会長

豊川信金の地域商社、売り上げ増で連続黒字へ 他信金とコラボ展開

マネックス証券、企業向け金融セミナー開催 資産形成の基盤築く

## アクセスランキング（過去1週間）

- 1 金融庁、ガバナンス態勢把握へ 信金・信組を調査
- 2 日本郵便、15年ぶり一時金減額 郵政G春闘が妥結
- 3 担保と覚悟 避けたいABLの二の舞い
- 4 信金中金、理事長に須藤氏 8年ぶりトップ交代
- 5 首都圏信金 金利上昇局面の不動産融資（上） 割合増は埼玉、東京に集中
- 6 SBI新生銀、SBIHDが親会社と筆頭株主に
- 7 ちゅうぎんFG、上場企業の課題解決に伴走 地元資本維持し地域を守る
- 8 「レビキャラ」登録、1年で100先増 3メガ参画、りそなも検討
- 9 千葉興業銀、異業種の農業参入支援 イチゴ農園開設を実現
- 10 地銀、企業の外資連携を後押し 拡販へ経産省とタッグも